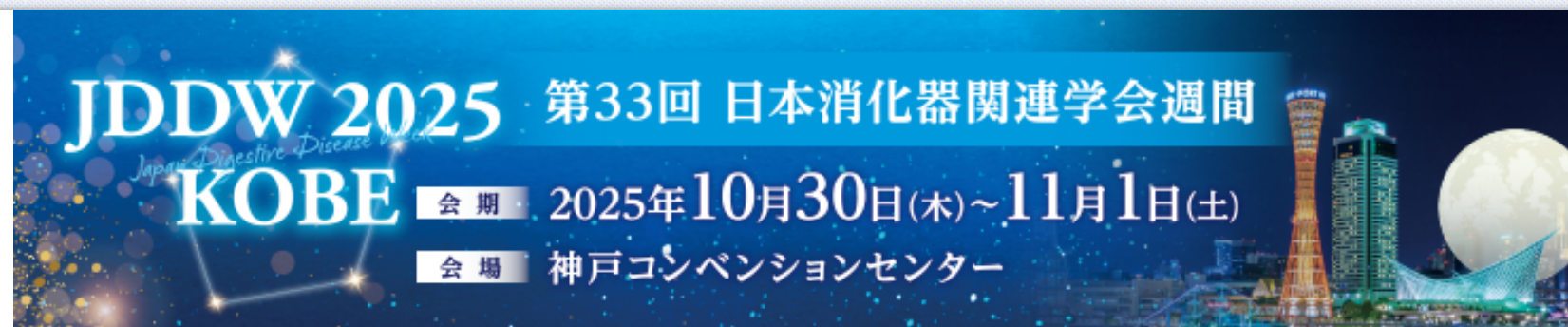




閉じる

デジタルポスターセッション外114(消化器外科学会)

11月1日（土） 14:54–15:12 第16会場（神戸国際展示場1号館2F デジタルポスター会場）

外P-559

医工連携により実現した「光る手術用ガーゼ」の臨床応用と将来展望

優秀演題賞

田代 良彦¹

共同演者：青木 武士¹, 伊達 博三¹, 渡邊 良平¹, 松田 和広¹, 草野 智一¹, 山崎 公靖¹, 渡辺 誠¹, 山上 裕機¹, 安永 秀計², 安藤 慎治³

¹ 昭和医大・消化器・一般外科

² 京都工芸繊維大・繊維学

³ 東京科学大・物質理工学院応用化学系

諸言:蛍光ガイド手術が様々な外科領域に応用されると同時に,多くの蛍光医療機器が開発されてきた.今回,ICGで染色した光る手術用ガーゼを開発し臨床応用したので報告する.方法:ガーゼのICG染色は浸漬蒸熱（染色+滅菌同時処理）にて行い,蛍光特性分析後に臨床使用した.倫理委員会承認後,2024年1月から2025年3月までの腹腔鏡およびロボット支援下手術43例が対象.結果:オートクレーブを用いた新規開発の浸漬蒸熱法により,発光強度と堅牢性に優れた蛍光ガーゼの製造が可能となった.ガーゼの蛍光は厚さ1cm以上の組織を透過し,ガーゼをガイドとする場面では,通常光ではガーゼの所在が不明であった14例全てでガーゼの蛍光により同定が可能となり,手術ガイドとして極めて有用であった.ガーゼ紛失を想定し小腸間膜内や横隔膜下にガーゼを留置したところ,蛍光により容易に同定できたことから,ガーゼ遺残の防止に効果的である.結語:手術を確実にガイドし,ガーゼ遺残を簡便に予防する「光る手術用ガーゼ」開発の成果を報告するとともに,社会実装（実用化）に向けた取り組みと今後の展望について紹介する.

図表は掲載しておりませんので、各学会誌をご確認ください。

索引用語1：蛍光ガーゼ

索引用語2：蛍光ガイド手術